

緑の相談コーナーだより

いわみざわ公園バラ園 www.iwamizawa-park.com

今月の便り

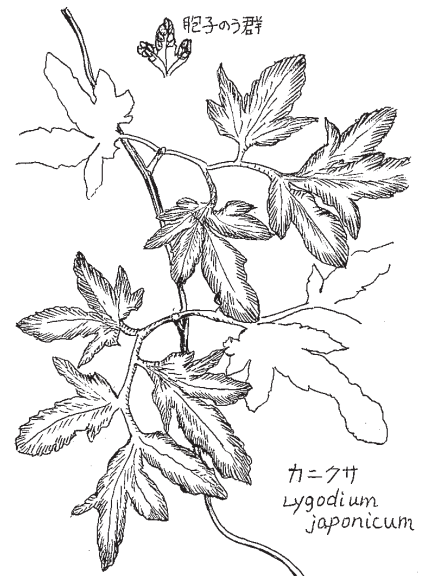
冬は唐辛子が気になるので調べて見ました

唐辛子は中南米原産のナス科トウガラシ属で、メキシコ中部で栽培跡が出土しましたが、それは紀元前 6500～5000年頃のものだといえます。古くから人の生活と共にある植物なのです。日本には1542年頃伝わった記録が最初のもので、食べる以外の使い方もされてきました。日本が朝鮮出兵した時には目潰しや毒薬として使ったので、それが韓国に伝わったとされています。特徴である辛さの刺激は、ほどほどなら食欲を増進したり身体を温めたり良いことも多いのですが、過ぎては痛みも伴うので敵への攻撃に有効だったのでしょうか。また民俗誌を読むと昭和の時代まで各地で魔除けとして使っていました。流行病などががると戸口に吊るす、燻す、身につけるなど。強烈な刺激が邪気を払うと信じていたようです。当時の邪気が何を指しているのかは曖昧ですが、今でも園芸で害虫・害獣の忌避に使われているのでそのような意味があったと思います。(きのした)

カニクサ

カニクサはフサシダ科カニクサ属のシダです。シダ類では珍しい、巻き付く形のツル植物です。別名のツルシノブはこれに由来します。長くのびるツルは、実は1枚の葉で本当の茎は地下にあり、地下を横に這い、先端から一枚の葉を地上に伸ばします。株が小さいうちは、葉は短く、次第に長い葉を出すようになり、長いものは数メートルにもなります。本州中部以南に分布し、道端や乾燥したところでもよく生育し、日向にも出てくるので一度はびこるとなかなかやっかいなようです。葉先のツルは柔らかいのですが成長したツルはとても丈夫でこのツルを使ってカニを釣ったことからカニクサと呼ぶそうです。葉には2種類のかたちが見られ、養分を作り出す葉(栄養葉)と、子孫を残すことを中心にした葉(孢子葉)があります。通常、栄養葉は孢子葉と比べ大型で、葉の切れ込みも少なくなります。暖かい地域では常緑となりツルが成長しつづけるのでより大型になっていきます。山野草として販売されることもあり、北海道では冬は室内で管理します。

(いとう)



太陽光と植物の色素について

植物は太陽の光を利用して暮らしています。光のエネルギーを吸収して光合成を行うのはクロロフィル。緑色の色素で葉緑素とも呼ばれます。春には黄色く発色する色素のカロテノイドも存在し、光のエネルギーを取り込んで光合成を助けています。秋の落葉前に、この色素の色が現れてくるのが黄葉です。太陽の光に含まれる有害な紫外線を防ぐために植物はサングラスもかけています。多くの葉はフラボノイド系の色素を含み、紅葉のもとになるアントシアニンもその一部です。植物は、緑の葉とは異なる鮮やかな色を花や果実に配置して、虫や鳥や動物の注意を惹き、花粉や種子を運ばせることに役立てています。花の色を操作する近年のバイオ技術は自然界に存在しない花色を生みました。自然界を超えて輝き始めた花色の世界。次に私たちが目にするのは何色の花でしょうか。(たかはし)

みどりの相談員 退任のご挨拶

私こと、10年間色彩館みどりの相談コーナーにて、相談員5人の一員として、植物を愛する方々の相談に応じてまいりましたが、満80歳を迎えた先月をもって退任いたしました。相談コーナーに来られた多くの方に、感謝申し上げます。花壇や室内の観賞用並び家庭菜園に愛情を注いでいる方々の植物が健康に育ち青空に向かうことをご祈念いたします。

元みどりの相談員 永安正宣

緑の相談コーナー Q & A

土壌改良 石灰 1

日本は雨が多い国で、土壌の石灰や苦土も流れやすく、酸性になりがちです。酸性土壌になると、有害なアルミナが活性化し、リンサンが吸着固定されて根からの吸収しにくくなります。また、土壌が酸性化になると有用な微生物も住みにくくなります。酸性土壌を矯正する目的は、カルシウム(石灰)やマグネシウム(苦土)を補給することにより、根が肥料分を吸収しやすいように根の回りを安定した環境に保つことです。作物には酸性を好むものと、酸性でも充分育つ作物も多くあります。ジャガイモは pH が高くなると肌がザラザラになり、ダイコンやカブも肌が真っ白になりません。スイカやサツマイモ、トウモロコシなども酸性に比較的強いのでよほど pH が低くない限り石灰を施す必要はありません。石灰を上手に施すコツは、酸性を嫌う作物と酸性に強い作物を順繰りに作り、石灰は酸性に弱い作物を作る前に施すことです。石灰やヨウリンと、チッソ分の多い堆肥やアンモニアを含んだチッソ肥料を、一緒に施すとチッソ分がガスになって抜けてしまいます。必ず個々に施しましょう。

ちょっと
いっぷく



ひとつき ひとバラ



文： 曾 根 浩 太
(いわみざわ公園バラ園)



第百二十回

ハイブリッドティー

ミシェルメイアン

Michele Meilland

作出国：フランス

作出者：Francis Meilland

作出年：1945年

ハーディネスゾーン：Z6

四季咲き

交雑：Joanna Hill × Peace

バラ園は冬囲いも終わり後は雪が降のを待つばかりとなりました。雪が積もる前の今と、春の雪解け後が一番バラにとっても寒さが厳しい時期なのでじっと耐えていただきたいですね。今回は少し特殊な囲い方をしているミシェルメイアンについてご紹介したいと思います。ミシェルメイアンはピンクの剣弁大輪咲きの品種で、淡いピンクの花弁と綺麗な花形はとても可愛らしく、長く愛されている名花になります。私がよくバラを調べる時に使っているHelpmefind というサイトでは花色がシーシェルピンクという記載がありました。調べてみると「貝殻の内側に光が干渉した際に見えるような、淡くほんのり黄みがあったピンク色」だそうで、繊細な色の表現に感嘆してしまいました。葉っぱは明るめの緑になります。甘いティーの香りがあり、香りもしっかり楽しめるバラです。高さ130cm、幅は65cm程度の大きさになります。交雑はジョアンナヒルとピースが親になります。ピースの子どもということでミシェルメイアンはピースファミリーの一員です。ジョアンナヒルはピースの交配親の一つになっている名花です。名花 × 名花で

生まれたミシェルメイアンも紛れもない名花です。可愛らしい見た目に反して耐病性はある、全くかからないということはないですが、秋まで葉っぱをしっかりとつけている品種になります。しかし、耐寒性に関しては当園とは合わず、いつも地際まで枯れこむような品種でした。そこで、ミシェルメイアンをしっかりと越冬させるために、現在は玉ねぎ等の収穫ネットに細目のウッドチップを詰め込み株の周りに配置、その上から透湿・防水シートを巻きます。かなりシルエットが丸くなり雪が乗ってしまうので、それを避けるために支柱を立て、防風ネットを上から巻く。といった囲い方をしています。ウッドチップで囲まれているので気温のブレがほぼなく、この囲い方をしてから安定して越冬することができています。こういった特殊な囲い方をしているのは園内ではミシェルメイアンとピースの2品種だけになります。このバラは作出したフランシス・メイアン氏が娘さんに捧げたバラです。そんな思い出のあるバラが、80年経っても栽培され愛されている品種になるというのは、頂いたミシェルさんも鼻高々だったでしょうね。

PIZZERIA Lucci



12月から土・日・祝のみの営業

営業時間 11:30 ~ 15:00(L.O 14:30)

2024年最終営業日は12月15日(日)

2025年の営業は1月11日(土)からになります

ご来店お待ちしております。



年末年始休館のお知らせ



室内公園 色彩館は12月30日(月)~1月3日(金)まで休館になります

今月の市民園芸講座のご案内

これは面白い!



- 12月28日(土) ①10:00~12:00 新春を迎える華やかアレンジメント
②13:00~15:00

材料費:3,500円(容器込み) 定員:各20名 講師:秋元 千秋 さん
持ち物:筆記用具、持ち帰り用の袋または箱

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。

電話:0126-25-6111 ホームページ:<https://iwamizawa-park.com/>

※資料をご用意の都合上、なるべく事前のお申し込みをお願いいたします。

連絡なしの欠席・遅刻はお申し込みをされた方のご迷惑となりますのでご遠慮ください。

※材料費のかかる講座は、講師の準備等の都合上、開催日3~4日位前までにお申し込みをお願いいたします。

※換気の為、扉・窓等を開放いたします。悪天の際は暖かい格好でお越しください。